

参考文献の表記方法

目次

参考文献の表記方法	1
1. 「引用」・「参照」・「脚注」・「参考文献」について	2
1.1. 「引用」の方法	2
1.1.1. ドイツ語の文章を引用する場合	3
1.2. 「参照」の方法	3
1.3. 「脚注」の使い方	3
1.4. 「参考文献一覧表」の作り方	4
1.4.1. 「参考文献一覧表」の書式	4
1.4.2. 参考文献一覧表の見出し	4
1.4.3. 参考文献の記載順	4
2. 文献情報の書き方	5
2.1. 脚注への「引用元」情報の書き方	5
2.2. 脚注への「参照元」情報の書き方	5
2.3. 参考文献一覧表への文献情報の書き方	5
a) 単行本	5
b) 論文集等に掲載されている論文	6
c) 紀要・雑誌などに掲載されている論文	7
3. インターネットからの情報を参考文献にする場合	7
3.1. インターネット情報の記載方法	7
3.2. インターネット情報の記載例	10
a) 報道機関（新聞やニュースの公式サイト）の記事	11
b) 公的機関や研究機関などで公表された調査資料や統計など	11
c) その他（企業の公式サイト、個人サイト、動画など）	11
d) 大学や研究機関において公表された雑誌論文・学術論文などの PDF 資料	12
e) 政府の白書などのウェブ版	12
4. 新聞を参考文献にする場合	12
5. 映画などの DVD を参考文献にする場合	13
6. さいごに	13
【付録】書式一覧表（日本語文献のみ。ドイツ語文献については各ページ参照） 13	

1. 「引用」・「参照」・「脚注」・「参考文献」について

先行する研究を何ひとつ参考にせずにレポートや論文を書くことはできません。しかし、先行する研究を（その文字列のみならずアイデアを含めて）そのまま自分の文章やアイデアのように使うことは、著作権法違反にあたります。先行研究を参考にする場合には、誰のどの文献を参考にしたのかを明記し、自分の文章・アイデアと区別する必要があります。その方法には「引用」と「参照」があります。いずれの場合も、脚注に出典（情報源）を明記し、なおかつその文献を誰にでもわかるように文章末の参考文献一覧に列記する必要があります。以下、その具体的な方法を述べます。なお、ここに説明のないものについては、指導教員の指示に従ってください。

1. 1. 「引用」の方法

- 「引用」とは、自分の文章の中で、自分の論の補強や具体化等のために、別の文献の語句や文章をそのまま使用することをいいます。
- **ブロック引用**：3行以上にわたる長い文章を引用する際は、9ポイント、日本語なら「MS明朝」、ドイツ語なら„Times New Roman“を使い、左側を2文字分下げ、上下を10.5ポイントで1行分ずつ空けます。引用文の末尾に、脚注を入れて引用元情報を示します。（サンプル①参照）
- **短い引用**：引用が数単語から1～2行の場合は、カギカッコでくくって本文に入れ、そのカギカッコの直後に脚注を入れて引用元情報を示します。

例) この作品もまた、「知識人による創作」¹⁵である。

- また、いずれの場合も、使用した資料の引用元情報を論文の最後に参考文献一覧として示します。
- 参考文献一覧や脚注への引用元情報の記載の仕方は「文献情報の書き方」（4ページ以下）を参照してください。
- 仮名遣いや句読点など引用元と一字一句違わないように気をつけてください！もし、引用元に間違いがあることに気づいた場合でも、その箇所を修正せずに、和文の場合にはその直後に「(ママ)」と、欧文の場合にはその直後に [sic!] と記します。
- 特定の引用した語句や文章は、それを書いた人の著作物であり引用者(=筆者)の主張ではありません。従って、ただ引用しただけでは個人の論文にはならないことに注意しましょう。

¹⁵ 阿部（1990：408）。

- 引用箇所の中に別の引用が埋め込まれていることがあります。引用の中の引用をそのまま信じてあたかもその文献を自分で直接読んだかのように用いることは「孫引き」と呼ばれ、禁止されています。埋め込まれた引用の文献を自分で直接入手して読んでください。どうしても原著が入手できない時には、その旨を明示して、引用してください。

1. 1. 1. ドイツ語の文章を引用する場合

- ドイツ語の文章を**ブロック引用**する場合には、その原典を本文中に引用し、直後に日本語訳をつけます。
- 日本語訳が筆者（＝引用者）の訳であるのか、それとも既存の訳を用いたのかは、明記しなければいけません。
- 既存の和訳がある場合でも、その和訳がつねに正しいとは限らないことに注意しましょう。
- ドイツ語等の外国語の文章を日本語に訳して引用する場合は、日本語訳のあとに（筆者訳）と書いて、そのあとに原文を示しておくこと。日本語訳はあくまでも「筆者訳」なので、AI 翻訳等の自動翻訳による日本語文をそのまま使わないこと。

1. 2. 「参照」の方法

- 情報源として参考にしただけで文章を文字通り引用していない場合や、その内容を要約して書いた場合は、「引用」ではなく「参照」になります。
- 参照した内容が特定の語句や文の一部分の場合には、その語句や部分のすぐ後に参照元情報を示します。参照した内容が文全体の場合は句読点の前に脚注を入れて、参照元情報を示します。
- 引用と同様に、参照した資料の書誌情報を論文の最後に参考文献一覧として示します。

1. 3. 「脚注」の使い方

- 脚注には、引用元情報や参照元情報を書きます。引用元情報の記載の仕方は「文献情報の書き方」（4 ページ以下）を参照してください。
- そのほか、脚注には、本文に書くほどではないものの、明示しておくのが望ましい情報を書き込むことができます。
- 脚注内の文は、9 ポイント、日本語なら「MS 明朝」、ドイツ語なら „Times New Roman“ で書きます。

1. 4. 「参考文献一覧表」の作り方

1. 4. 1. 「参考文献一覧表」の書式

- レポート・論文執筆に際して引用・参照した文献をまとめて一覧表を作成し、本文の後に掲載します。これを、「参考文献一覧表」と呼びます。
- この一覧表には文献に関する情報だけを載せ、自分が引用または参照したページについては記載しません。
- 参考文献一覧表は、和文は 10.5 ポイントの「MS 明朝」、欧文は 10.5 ポイントの „Times New Roman“ で表記します。
- 参考文献の情報が複数行にわたる場合、二行目以降を 1 字下げます（各書式のサンプルを参照）。
 - Word の場合、該当箇所を右クリック→「段落」を選択し、「インデント」のところの「最初の行」を「ぶら下げ」に、「幅」を「1 字」に設定します。

1. 4. 2. 参考文献一覧表の見出し

- 見出しは、和文なら「参考文献」、欧文なら „Literaturverzeichnis“ とします。
 - フォントは、和文は 12 ポイントの「MS ゴシック」、欧文は 12 ポイントの „Arial“ を使用します。また、見出しのあいだには 1 行スペースを入れます。
- 書籍や雑誌論文のみならず、インターネット情報、新聞、DVD 等を利用した場合には、「書籍・論文」「インターネット情報」「新聞」「DVD」等に分けて、それぞれの一覧表を作ります。
- また、場合によっては、
 - 「一次文献」 „Primärliteratur“ : 文学作品など、中心的な研究対象とした文献
 - 「二次文献」 „Sekundärliteratur“ : 一次文献に関して書かれた、またはそれ以外に参照した全ての文献を分けて、それぞれの一覧表を作ります。
- それぞれの見出しは、和文は 12 ポイントの「MS ゴシック」、欧文は 12 ポイントの „Arial“ で表記し、一覧と一覧の間に一行スペースを空けます。

1. 4. 3. 参考文献の記載順

- 参考文献一覧表に挙げる文献は、著者（または編集者）の姓の順に並べます。
 - 和書と洋書を分けて和書をアイウエオ順に、洋書を ABC 順に並べる方法や、和書と洋書を分けずにすべて ABC 順に並べる方法があります。
 - 同一著者の文献を複数挙げる場合には、出版年の順に並べます¹⁶。

¹⁶ 同一著者の出版年の同じ文献が複数ある場合には、出版年の後にアルファベットをつけて区別します。例) 熊谷徹 (2015a) 『日本とドイツふたつの「戦後」』集英社。熊谷徹 (2015b)

- 著者名が不明の場合には、書名・サイト名の順に挙げます。

2. 文献情報の書き方

引用・参照する文献についての情報は、一定のルールに従って記述します。以下、脚注への記述の方法と参考文献一覧への記述の方法を示します。

2.1. 脚注への「引用元」情報の書き方

- 引用元の情報は、以下のように脚注内に記載します。

著者の姓（発行年：[ページ数]）。 [年・ページともに数字のみ]

例 1) 阿部（1978：24）。 例 2) 阿部（1978：24-25）。

例 3) Borst (1983: 132). 例 4) Borst (1983: 132-133).

- 数字は半角の使用を推奨します。
- 和書の場合、カッコとコロンは全角で、末尾は句点にします。
- 洋書の場合、カッコとコロンは半角で、コロンの後に半角スペースを入れます。末尾はピリオドにします。

2.2. 脚注への「参照元」情報の書き方

- 参照元をあらわす場合、引用の場合と同様に文や語句の後に脚注を入れます。
- 脚注内には、日本語で書く場合は、引用と同様の表記のあとに「参照」とつけます。
- ドイツ語で書く場合、文頭の場合は、例 2) のように„Vgl.“を前に書きます。文中の場合は、例 3) のように語頭ではないので„vgl.“とします(vgl. は、vergleicheの略です)。

例 1) 阿部（1978：24）参照。 例 2) Vgl. Borst (1983: 132-133).

例 3) Zu Details dieser Repräsentation vgl. Borst (1983: 132-133).

2.3. 参考文献一覧表への文献情報の書き方

- 「参考文献一覧表」には、以下のようにそれぞれ文献情報を記載します。

a) 単行本

【日本語文献】

著者（出版年）『書名』[第○版]（編集者・訳者）出版社。

『ドイツ人はなぜ、1年に150日休んでも仕事が回るのか』 青春出版社。

- 「版」の表記は、初版であれば必要ありません。また「刷」は、表記する必要がありません。出版年は、使用する版が出た年を表記します。

例 1)

ゲーテ、ヨハン・ヴォルフガング (2011) 『原形ファウスト』(新妻篤訳) 同学社。

例 2)

田中共子 (編) (2009) 『よくわかる学びの技法』[第 2 版] ミネルヴァ書房。

【ドイツ語文献】

著者 (出版年): 書名 [イタリック体で] . 出版地: 出版社.

例)

Wolf, Christa (1989): *Sommerstück*. Berlin u. Weimar: Aufbau.

b) 論文集等に掲載されている論文

【日本語論文】

著者 (出版年) 「論文名」 編集者名 『掲載元の書名』 出版社、掲載ページの範囲。

例)

脇阪豊 (2005) 「テキストからメディアへー『くりかえし』機能を中心にー」 杉谷眞
佐子／高田博行／浜崎桂子／森貴史編著 『ドイツ語が織りなす社会と文化』 関西
大学出版部、71～89 ページ。

【ドイツ語論文】

著者 (出版年): 論文名. In: 編集者名 (Hrsg.): 掲載元の書名 [イタリック体で] . 出
版地: 出版社, 掲載ページの範囲.

例)

Meyer, Reinhart (1983): Das Nationaltheater in Deutschland als höfisches Institut. Versuch
einer Begriffs- und Funktionsbestimmung. In: Roger Bauer / Jürgen Wertheimer (Hrsg.):
Das Ende des Stegreifspiels. Die Geburt des Nationaltheaters. München: Fink, S. 124-
152.

※単行本、論文集ともに、著者や編集者が複数いる場合には、著者名や編集者名
を「/」でつなぎます。

例)

新野守広／飯田道子／梅田紅子編著 (2019) 『知ってほしい国ドイツ』[第 2 版] 高
文研。

ドイツ語の文献の場合は、半角の「/」でつなぎ、「/」の前後には半角スペースを

入れます。最初の著者名だけは姓 (Nachname), 名 (Vorname) の順で書きます。
例)

Repp, Sophie / Volker Struckmeier (2020): *Syntax. Eine Einführung*. Berlin: J. B. Metzler.

c) 紀要・雑誌などに掲載されている論文

【日本語論文】

著者 (出版年) 「論文名」 発行元『掲載元の書名』第○号、掲載ページの範囲。

例)

松下亮 (1974) 「ハイネとベルネー—伝記的にみた両者の交渉前史」九州大学独文学研究
会『独仏文学研究』第 24 号、69～86 ページ。

【ドイツ語論文】

著者 (出版年): 論文名. In: 掲載元の書名 [イタリック体で] . Bd. o, 掲載ページの
範囲.

例)

Bähr, Jürgen (1999): Tag der 6 Milliarden Menschen. Zur jüngeren Entwicklung der
Weltbevölkerung. In: *Geographische Rundschau*. Bd. 51, S. 570-573.

3. インターネットからの情報を参考文献にする場合

- インターネットからの情報には、信頼性が不明なものが多く存在します。ブログや Wikipedia は、その良い例です。他方、非常に貴重な情報や最新の情報も含まれているのも事実です。引用する際には、慎重に見極めてから以下の基本情報を確認して下さい。基本情報が分からないものは引用しない方がよい¹⁷、と考えて下さい。
- 紙媒体でも発行されている資料のウェブ版、あるいは紙媒体での出版形態に準じたウェブ上資料 (学術雑誌、政府発行の資料、研究機関発行の調査資料等) については紙媒体の書誌情報に URL と参照日を加えるだけでかまいません (判断が難しい場合は担当教員等に相談して下さい)。以下は、これに該当しないインターネット情報の記載方法を説明したものです。

3. 1. インターネット情報の記載方法

- 基本情報として、1. (可能なら) 該当ページ・記事の著者、あるいはサイトの管理者・団体の名称、2. そのページの更新年 (月日)、3. (可能なら) 記事・論文・資料タイトル、4. 参照ページのタイトル、5. URL、6. 参照日 (そのページを

¹⁷ もちろん、そのようなサイトでも一次資料としてどうしても必要なこともあります。その場合は担当教員等と相談の上、引用・参照するようにして下さい。

見た人の参照日時)を確認してください。

この情報をまとめて、以下のように参考文献一覧表には記載します。

著者あるいは管理者・団体名(掲載年月日)「記事・論文・資料タイトルあるいは参照ページのタイトル」管理者・団体名、URL: 例 <https://xxx/yyy/zzz/> (参照日: 参照年月日)。

- ▶ URL (Uniform Resource Locator) とは「インターネット上の住所で、アクセスしている Web ページがどこにあるかを示すもの」です。リンク(文書中に関係づけられたもので、その箇所をクリックすると別のページに飛ぶもの)を貼り付けてはいけません。
- ▶ 論文をダウンロードしたはずなのに、ブラウザの上のアドレス・バーに `file:///C:/Users/HarukaSato/Downloads/37651190.pdf` のような情報が示されていることがあります。これは HarukaSato さんのディスクの C ドライブの中の「ダウンロード」フォルダの中のファイルを示しているため、URL ではありません。大学のレポジトリから論文をダウンロードする場合、近年はいきなりダウンロードされてしまうことがあります。その場合には、レポジトリのサイトに戻って、論文の URL を探します。

例 1) <https://www.goethe.de/ins/jp/ja/kul/sup/fac/adr.html>

1. サイトの管理者・団体の名称: Goethe-Institut 日本
2. そのページの更新年(月日): (更新日時) 2024年4月12日 15:31:59
3. 参照ページのタイトル: 授業におけるヘイトスピーチ
4. 参照日: 2024年5月17日

このページの著者名は記載されていません。掲載年月日も書かれていませんが、このページの更新日時は「2024年4月12日 15:31:59」であることがブラウザの「ページの情報」から分かります。そこで、以下のように文献情報を記載します。

Goethe-Institut 日本 (2024年4月12日)「授業におけるヘイトスピーチ」URL:
<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/kul/sup/fac/adr.html> (参照日: 2024年5月17日)。

例 2) <https://gfds.de/aesthetische-kriterien-sind-bei-der-vornamenwahl-besonders-wichtig/>

1. サイトの管理者・団体の名称: Gesellschaft für deutsche Sprache e. V.
2. そのページの更新年(月日): 25. Februar 2014
3. 参照ページのタイトル: Ästhetische Kriterien sind bei der Vornamenwahl

besonders wichtig

4. URL : <https://gfds.de/aesthetische-kriterien-sind-bei-der-vornamenwahl-besonders-wichtig/>

5. 参照日 : 2024 年 5 月 16 日

この情報から、以下のように文献情報を記載します。

Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (25.2.2014): Ästhetische Kriterien sind bei der Vornamenwahl besonders wichtig. URL: <https://gfds.de/aesthetische-kriterien-sind-bei-der-vornamenwahl-besonders-wichtig/> (abgerufen am 16.5.2024).



- 参照ページのタイトルは、<https://gfds.de/aesthetische-kriterien-sind-bei-der-vornamenwahl-besonders-wichtig/> にアクセスすると、たいていはブラウザの上のアドレス・バーに表示されます¹⁸。
- サイトの管理者・団体を見つけるには、ページの上のロゴの近くか、Impressum（「奥付」）を確認してください。ここでは、(2) に団体名が書かれています。
- このページの更新年月日は、(3) に書かれています。Meldung vom 25. Februar 2014 なので、(25.2.2014) と書きます。
- URL は、ブラウザのタブの下のアドレスバーに表示されている文字列（上の図の赤枠の部分）をコピーして使います（コピー&ペーストすると自動的に「http://」や「https://」などが補われます）。
- 参考文献に、DOI¹⁹が記されている時は、URL の代わりにそれを書くことも

¹⁸ ブラウザのタブにサイト名が表示されています。一部しか表示されていない場合、タブのところにマウスカーソルを合わせて少し待つと、文字列が全て表示されます。

¹⁹ DOI (Digital Object Identifier, デジタルオブジェクト識別子) とは、インターネット上で恒

できます。参照日は、このページにアクセスした日を書きます。インターネット情報は、頻繁に更新されますので、いつアクセスしたかが重要な情報です。2024年5月16日にアクセスしたのなら (abgerufen am 16.05.2024) と書きます。

- 「著者」が不明な場合はサイトの管理者・団体の名称で代替します。いずれにしても、その記事の内容に責任を持つのが誰なのかを明確にしてください。これが明確でないような場合には、その記事は引用しないほうがいいでしょう。
- 「掲載年月日」の内、月日が不明な場合は、掲載年だけでもかまいません。掲載年も不明な場合には、(n. d.) としてください (n. d. は、not dated; nicht datiert の省略形です)。
- サイト内の記事、論文 PDF、資料データ等の名称が明確な日本語のページの場合、「」で括って記載してください。明確でない場合には「参照ページのタイトル」を代わりに記述することも可能です。
- 欧文の場合は、使うカッコ・記号・書体等については、「文献情報の挙げ方」以下に書いてある、ドイツ語での文献情報の挙げ方を参考にしてください。

- 引用・参照する場合は、下記の情報を脚注に記載します。

著者の姓あるいは管理者・団体名 (掲載年月日)。

- 参照する場合は、末尾に「参照」とつけてください。

例 1) の場合 : Goethe-Institut 日本 (2024年4月12日) 参照。

例 2) の場合 : Gesellschaft für deutsche Sprache e. V. (25.2.2014) 参照。

3.2. インターネット情報の記載例

- 基本的に、「誰が、いつ、どのようなタイトルで、何をどのサイトで発表しているのか」を明示し、参照年月日を書けば良いのですが、これが意外に難しいことがあります。素性が分からないサイトの情報は、使わないのが原則です。
- 以下に幾つかの例を挙げますが、ここでは紹介しきれなかった種類もありますので、引用の仕方が分からない場合には、指導教授の先生に相談して下さい。
- 該当のページの情報記載日が書かれていない場合は、(n. d.) としてください (n. d. は、not dated; nicht datiert の省略形です)。

久的にデジタル資料を一義的に示すことができる識別子です。 [例] DOI: 10.1241/johokanri.55.42 と書かれていたら、その前に、「<https://doi.org/>」を付けることにより、URLとして機能します。

a) 報道機関（新聞やニュースの公式サイト）の記事

加藤貴行（2016年3月11日）「独VW、世界販売2カ月ぶりマイナス 2月 1.2%」
日本経済新聞、URL:
http://www.nikkei.com/article/DGXLASGM11H75_R10C16A3FF2000/（参照日：2016
年3月28日）。

Wagner, Wieland (11.03.2016): Fünf Jahre nach Fukushima: Japan setzt auf nuklearen
Neustart. Spiegel Online, URL: <http://www.spiegel.de/wissenschaft/technik/fuenf-jahre-fukushima-japansungenutzte-chance-a-1081070.html> (abgerufen am 12. 11. 2015).

b) 公的機関や研究機関などで公表された調査資料や統計など

総務省（2014）「ラジオ及びテレビジョン平均視聴時間量の推移」総務省、URL:
[https://
www.soumu.go.jp/johotsusintokei/field/housou05.html](https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/field/housou05.html)（参照日：2022年5月12
日）。

新聞協会経營業務部（2021年10月）「新聞の発行部数と世帯数の推移」日本新聞
協会、URL: <https://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php>（参照日：
2022年5月10日）。

厚生労働省（n. d.）「アスベスト（石綿）に関するQ & A」厚生労働省、URL:
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/sekimen/t
opics/tp050729-1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/sekimen/topics/tp050729-1.html)（参照日：2021年12月15日）。

c) その他（企業の公式サイト、個人サイト、動画など）

Auto Prove 編集部（2019年6月1日）「【ヘリテージ】ポルシェ博士とビートル
そして国民車構想」URL: <https://autoprove.net/imported-car/vw/the-beetle/165087/>
（参照日：2022年5月9日）。

Sick, Bastian (22. 9. 2015): Nach Lauten gemalt. Bastian Sick, URL:
<http://www.bastiansick.de/>

[zwiebelfisch_3/zwiebelfisch/nach-lauten-gemalt](http://www.bastiansick.de/zwiebelfisch_3/zwiebelfisch/nach-lauten-gemalt) (abgerufen am 22. 12. 2015).

ゲルケ、アレクサンダー（2011年10月1日）「ドイツから見たフクシマ ドイツの
危機 報道についての考察」をちこち Magazine、URL:
<https://www.wochikochi.jp/relayessay/2011/10/germany-fukushima.php>（参照日：
2015年12月27日）。

IKEA Deutschland (19. 3. 2016): IKEA Werbung: TV-Spot „Outdoor“ 2016. YouTube, URL:
<https://www.youtube.com/watch?v=LcgGwVvasFs&spfreload=10> (abgerufen am 1. 12.

2015).

- 上述のとおり、紙媒体でも発行されている資料のウェブ版、あるいは紙媒体での出版形態に準じたウェブ上資料については紙媒体の書誌情報に URL と参照日を加えるだけでかまいません。以下、例を挙げておきます。

d) 大学や研究機関において公表された雑誌論文・学術論文などの PDF 資料

Weiß, Wolfgang (2003): Regional-Demographie der DDR – ein

bevölkerungsgeographischer Nachruf. In: *Sitzungsberichte der Leibniz-Sozietät*, Band 62, URL: http://leibnizsozietat.de/wp-content/uploads/2012/11/07_weiss.pdf (abgerufen am 12. 11. 2015).

Schäffgen, Katrin (1998): *Die Verdopplung der Ungleichheit. Sozialstruktur und Geschlechterverhältnisse in der Bundesrepublik und in der DDR*. Humboldt-Universität zu Berlin, URL: <http://edoc.hu-berlin.de/dissertationen/phil/schaeffgen-katrin/PDF/Schaeffgen.pdf> (abgerufen am 12. 11. 2015).

e) 政府の白書などのウェブ版

経済産業省 (2021 年 8 月 23 日) 『通商白書 2021 (PDF 版)』 URL: https://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2021/whitepaper_2021.html (参照日: 2021 年 12 月 4 日)。

4. 新聞を参考文献にする場合

- 引用・参照する場合は、下記の情報を脚注に記載します。

著者の姓 (掲載年月日)。

- 著者名や記者名が不明の場合は、新聞名を記載してください。
- 参照する場合は、末尾に「参照」とつけてください。

例 1) 熊倉 (2016 年 1 月 26 日)。 例 2) 東京新聞 (2016 年 1 月 22 日)。

- 参考文献一覧表には、下記の通り記載します。

著者 (掲載年月日) 「記事タイトル」 『新聞名』。

- 著者名や記者名の記載がない場合、代わりに新聞名を記載してください。
- 欧文の場合は、使うカッコ・記号・書体等については、「参考文献の挙げ方」以下に書いてある、ドイツ語での文献情報の挙げ方を参考にしてください。

例 1)

熊倉逸男 (2016 年 1 月 26 日) 「論説委員のワールド観望 大聖堂足下の悪夢」 『中日新聞』。

例 2)

東京新聞（2016年1月22日）「奨学金 給付型早期導入に慎重：首相「財源など検討必要」」『東京新聞』。

5. 映画などの DVD を参考文献にする場合

- セリフの引用やシーンの参照をする時には、下記の情報を脚注に記載します。

監督の姓／脚本家の姓（発行年、チャプター番号、時間）。

例) Daldry / Hare (2008, Kapitel 5, 2:34-3:50).

- 参考文献一覧表には、下記の通り記載します。

名前1（監督）／名前2（脚本）（発売年）『タイトル』[DVD]、（原作：[原作に関するデータ]）、発行地：発売元。

- 原作が存在する場合、原作の著者と発行年について記載してください。
- 欧文の場合は、使うカッコ・記号・書体等については、「参考文献の挙げ方」以下に書いてある、ドイツ語での文献情報の挙げ方を参考にしてください。

例)

Daldry, Stephen (Regie) / Hare, David (Drehbuch) (2008): *Der Vorleser*. [DVD], Originalroman von Bernhard Schlink (1997), Deutschland, USA: Universum Film.

6. さいごに

- 執筆にあたっては、執筆者自身の考察部分であるのか、先行研究に依拠した「引用」の部分であるかを、つねに意識して区別してください。
- 参考文献（インターネットによる情報も含む）に書かれた言葉を、出典を明記しないで書くことは無断引用であり、剽窃行為にあたります。
- 剽窃行為が明らかになった場合、その論文・レポートは不合格となります。

【付録】書式一覧表（日本語文献のみ。ドイツ語文献については各ページ参照）

書籍・論文		(→ S. 4 - 6)
脚注		著者の姓（発行年：ページ数） [発行年、ページは数字のみ]
参考文献一覧	単行本	著者（出版年）『書名』[第○版]（編集者・訳者）出版社。
	論文集内論文	著者（出版年）「論文名」編集者名『掲載元の書名』出版社、掲載ページの範囲。

	紀要・雑誌内論文	著者（出版年）「論文名」発行元『掲載元の書名』第○号、掲載ページの範囲。
インターネット情報		(→ S. 6 - 10)
	脚注	著者の姓（掲載年）。
	参考文献一覧	著者・管理者名（掲載年月日）： [『記事・論文・資料タイトル』] 「参照ページのタイトル」、URL（参照日： [参照年月日] ）。
新聞		(→ S. 10 - 11)
	脚注	著者の姓（掲載年月日）。 [著者不明の場合、新聞名]
	参考文献一覧	著者（掲載年月日）「記事タイトル」『新聞名』。 [著者不明の場合、新聞名]
DVD		(→ S. 11)
	脚注	監督の姓／脚本家の姓（発行年、チャプター番号、時間）。
	参考文献一覧	名前1（監督）／名前2（脚本）（発売年）『タイトル』 [DVD]、（原作： [原作に関するデータ] ）、発行地：発売元。

1. はじめに

日本のドイツ文学研究において、ライナルト・ゲッツ (Rainald Goetz, 1954-) という作家はほとんど忘れられてしまっている、あるいはほとんど注目されてこなかったと言っても過言ではないだろう。彼の作品で現在唯一翻訳されているのは、戯曲『ジェフ・クーンズ (Jeff Koons)』のみである。この戯曲の翻訳者でもある初見基は、ゲッツを扱っている数少ない論考の中で、彼を次のように評価している。

その後 [1983年のインゲボルク・パッハマン賞のための朗読の後] 出された2作の小説 [Irre (1983), Kontrolliert (1988)] によってゲッツの評価は定まるが、80年代後半には戯曲も大いに注目された。小説では、それぞれ〈狂気〉、〈テロリズム〉という、おそらくはゲッツ自身の強烈な経験に基づくだろう動機を、きわめて断片的であるように見せながら構築性の強い作品に仕立て上げており、この2作は80年代でもっとも重要な作品に入ると思われる。

そう明言しているわけではないが [...], 〈書くべきことは書ききった〉との境地にでも達したのだろう、90年代に入ってから、少なくとも2編の小説で見せていたような緊張感 は作品から感じられなくなっている²⁰。

初見によれば、90年代を境にゲッツの「小説」(と少なくとも著者が銘打っているもの) は、「〈作品〉構築の放棄」²¹による「〈解体〉」²²にまで至っており、「そもそも虚構世界を作り上げることがいっさい断念されている観がある」²³という。その最たる例が『皆にとっての／のためのごみくず (Abfall für alle)』であり、1998年2月4日から99年1月10日までの343日間インターネット上で公開されたテキスト、今風に言えばブログの記事が、「ある一年の小説」として発表された²⁴。

初見も指摘しているように、これはポジティブに捉えれば既存の文学的コードへの従属の拒絶というパフォーマンスとして評価しうるが、結局は「悪く言うなら言葉の垂れ流しにすぎない」²⁵ものである。書くことの不可能性を追求し、それでもなお書き続けていると

²⁰ 初見 (2001 : 17)。

²¹ 初見 (2001 : 18)。

²² 初見 (2001 : 19)。

²³ 初見 (2001 : 17-18)。

²⁴ 初見 (2006 : 248) 参照。

²⁵ 初見 (2001 : 18)。

参考文献

一次文献

Goetz, Rainald (1998): *Rave*. Frankfurt a. M.: Suhrkamp.

Goetz, Rainald (1999): *Abfall für alle. Roman eines Jahres*. Frankfurt a. M.: Suhrkamp.

Hegemann, Helene (2011): *Axolotl Roadkill*. Berlin: Ullstein.

二次文献

Baßler, Moritz (2002): *Der deutsche Pop-Roman. Die neuen Archvisten*. München: C. H. Beck.

Feiereisen, Florence (2011): *Der Text als Soundtrack. Der Autor als DJ. Postmoderne und postkoloniale Samples bei Thomas Meinecke*. Würzburg: Koenigshausen & Neumann.

Klein, Gabriele (2004): *Electronic Vibration. Pop Kultur Theorie*. Wiesbaden: VS Verlag für Sozialwissenschaften.

Kösch, Sascha (2001): Ein Review kommt selten allein. Die Regeln der elektronischen Musik. Zur Schnittstelle von Musik- und Textproduktion im Techno. In: Jochen Bonz (Hg.): *Sound Signatures. Pop-Splitter*. Frankfurt a. M.: Suhrkamp, S. 173-189.

野田努 (2001) 『ブラック・マシン・ミュージック：ディスコ、ハウス、デトロイト・テクノ』河出書房新社。

初見基 (2001) 「〈戦後文学〉の終わり？——90年代文学のいくつかの特徴——」初見基編『〈戦後文学〉を越えて——1989年以降のドイツ文学——』日本独文学会、3～19 ページ。

初見基 (2006) 「訳者解説：空疎さのなかの〈光あれ〉」ゲッツ、ライナルト (2006) 『ドイツ現代戯曲選 23 ジェフ・クーンズ』(初見基訳) 論創社、241～256 ページ。

インターネット情報

Cable News Network (2013年2月7日) 「論文盗作で博士号剥奪のドイツ教育相 大学相手に訴訟の構え」CNN.co.jp、URL :

<http://www.cnn.co.jp/world/35027939.html> (参照日：2016年4月7日)。

【付録 本文サンプル①】

Pirmasens, Deef (5. 2. 2010): Axolotl Roadkill: Alles nur geklaut?, Die Gefühlskonserven,
URL: <http://www.gefuehlskonserve.de/axolotl-roadkill-alles-nur-geklaut-05022010.html> (abgerufen am 12. 9. 2015).

Rapp, Tobias (18. 1. 2010): Das Wunderkind der Boheme, Spiegel Online, URL:
<http://www.spiegel.de/spiegel/a-672725.html> (abgerufen am 24. 11. 2014).

7. PISA と教育報告書

ドイツで2000年代に教育改革が進められることとなったきっかけである PISA は、その後も3年ごとに調査が行われており、引き続きドイツは参加している。2000年以降、徐々にドイツ全体の平均点が上がっている（表1）。また、2000年と2012年の総合読解力の平均点を比べると、移民の背景を持つ子どもは移民の背景を持たない子どもよりも点数が伸びていることが明らかになった（表2）。

表1 PISA2000～2015の平均点の推移

	総合読解力（OECD 平均）	数学的リテラシー	科学的リテラシー
2000	484（500）	490（500）	487（500）
2003	491（500）	503（500）	502（500）
2006	494（492）	504（498）	516（500）
2009	497（493）	513（496）	524（501）
2012	508（494）	514（496）	524（501）
2015	509（493）	506（490）	509（493）

出典：文部科学省（2017）を参考に筆者作成。

表2 PISA2000と2012の総合読解力の平均点の推移

	全体	移民の背景なし	移民の背景あり
2000	484	509	444
2012	508	522	474

出典：DIPF(2016)を参考に著者作成。

PISAの結果公表を改善に結びつけるために、KMKは2002年に教育報告書を作成することを定めた。この教育報告書は2006年以降、連邦と州レベルで2年ごとに作成されているが、今回は連邦レベルの教育報告書に注目したいと思う¹²。2016年の教育報告書は移民の背景を持つ人の教育がテーマとなっている。ドイツ語の習得は学校教育とドイツ社会への参加において重要な役割を果たす。2015年の段階で、移民の背景を持つ4歳から5歳の子どものうち、63%の子どもが家庭でドイツ語以外の言葉を使用している¹³。よって現在もなお、就学前教育や学校教育におけるド

¹² 坂野（2012：47）参照。

¹³ DIPF（2016：166）参照。

1. はじめに

動詞とその項の関係は、統語レベルと意味レベルの中間に位置し、両者の関係を取り持っているが、不変化詞動詞 (Partikelverben) においては、動詞不変化詞部分が項構造を決定する場合としない場合があることが知られている (Stiebels 1996, Olsen 1997, Zeller 2001)。例えば、動詞不変化詞 *ab* の存在が (1a) と (1b) では項構造に反映されていない。(1) とは対照的に、(2) の例では動詞不変化詞 *ab* が項の意味素性を決定している。

(1) a. Thomas hat den Staub vom Tisch gewischt.

(トーマスは机のほこりを拭き取った。)

b. Thomas hat den Staub vom Tisch abgewischt.

(トーマスは机のほこりを拭き取った。)

(2) a. Sie telefonierten alle Bekannten und Freunde ihrer Tochter ab. Neuhaus (2023:18)

(彼らは、自分達の娘のあらゆる知人や友人のところにくまなく電話をした。)

b. *Sie telefonierten einen Freund ihrer Tochter ab.¹⁴

(2a) の *abtelefonieren* は、対格目的語が人間を示す普通名詞複数形か、複数の人間の存在を含意する名詞 (*die Liste, das Parlament*) か複数の機関 (*Krankenhäuser, Kliniken*) であることを要求する。従って、(2b) のような人間を示す普通名詞単数を対格目的語とする文は容認できない¹⁵。

ab を伴った不変化詞動詞は、一般的に除去動詞として知られており、Levin/ Rappaport Hovav (1991) や岡本 (2003) で論じられているような項交替現象を引き起こす。しかし、(2) のような対格目的語の数の素性に関与するような例があることはこれまで見過ごされてきた。本稿では、構文文法の枠組みを用いることで、動詞不変化詞 *ab* がもたらすこの種の動詞・名詞間の意味関係を説明することを目指す。

構文文法 (Construction Grammar) とは、Fillmore (1985) や Fillmore/ Kay/ O'connor (1988) に端を発し、Goldberg (1995, 2006) で注目を集めた認知言語学的なモデルである。Goldberg (2006) は構文 (construction) を以下のように定義する。

Any linguistic pattern is recognized as a construction as long as some aspect of its form or function is not strictly predictable from its component parts or from other constructions recognized to exist. In addition, patterns are stored as constructions even if they are fully predictable as long as they occur with sufficient frequency [... 以下省略 ...].¹⁶

¹⁴ (2a) の例文から推測した作例。

¹⁵ Wortschatz Leipzig で検索した結果に基づく判断。詳細は第2節を参照。

¹⁶ Goldberg (2006: 5).

【付録 本文サンプル③】

この定義の中での中心部分は、「構文がある種の言語的パターンで」はあるが、「それを構成する部分から形や機能が厳密に予想できないようなもの」を指す、という部分にある。さらに、さまざまな「パターンは、十分な頻度で生起すれば、完全に予想できるにもかかわらず構文として（脳内に）蓄えられている」と仮定しているところには、認知言語学に寄った用法基盤モデルとしての立場が表明されている。形式と意味のペアで作られる言語記号を構文レベルまで拡張した、と見なすことができる一方で、構成性の原理を否定しているところに問題点も生じる。

参考文献

- Fillmore, Charles (1985): Syntactic Intrusions and the Notion of Grammatical Construction. In: *BLS* 11, S. 73-86.
- Fillmore, Charles/ Paul Kay/Catherine O'conner (1988): Regularity and Idiomaticity in Grammatical Constructions: The Case of *Let Alone*. In: *Language* 64, S. 501-538.
- Goldberg, Adele E. (1995): *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.
- Goldberg, Adele E. (2006): *Constructions at Work: The Nature of Generalization in Language*. New York: Oxford University Press.
- Levin/ Rappaport Hovav (1991): Wiping the slate clean: A lexical semantic exploration. In: Beth Levin/ M. Rappaport Hovav (Hrsg.) *Lexical and Conceptual Structures*. Cambridge: The University of Chicago Press.
- 岡本順治 (2003) 「ドイツ語の除去動詞：その不変化詞動詞化における項構造の変化を検証する」 In: 岡本順治／成田節 (編) 『いわゆる「分離動詞」をめぐって』 日本独文学会研究叢書 023. 日本独文学会、12～25 ページ。
- Olsen, Susan (1997): Zur Kategorie Verbpartikel. In: *Beiträge zur Geschichte der deutschen Sprache und Literatur*, 119, S. 1-32.
- Stiebels, Barbara (1996): *Lexikalische Argumente und Adjunkte: Zum semantischen Beitrag von verbalen Präfixen und Partikeln*. *studia grammatica* 39. Berlin: Akademie Verlag.
- Zeller, Jochen (2001): *Particle Verbs and Local Domains*. Amsterdam: John Benjamins.

言語資料

Neuhaus, Nele (2023): *Monster*. Berlin: Ullstein.

Wortschatz Leipzig / Leipzig Corpora Collection. URL: <https://wortschatz.uni-leipzig.de/de>